

記入上の注意

申込書、様式Ⅰ、様式Ⅱ、様式Ⅲ-ABC、様式Ⅳ-AB、様式Ⅴ、様式Ⅵ-①②の記入にあたっては、本紙「記入上の注意」に従って記入すること。データ提出の場合、すべての様式はPDFフォームの形式（フィールドが表示されたもの）で提出すること。各記入枠内に収まる範囲で記入すること。年の記載は、和暦ではなく西暦で記入すること。指定がないかぎり、日本語で記入すること。様式や指定された書類以外の別紙等は添付しないこと。

【様式.申込書】 全応募者対象

1頁以内とすること。

①応募分野、作品制作者・実演者／それ以外の別

【応募分野】 美術、音楽、舞踊、演劇、舞台美術等、映画、メディア芸術の中から該当するものを一つチェックすること。

【作品制作者・実演者／それ以外の別】 作品制作者・実演者、作品制作者・実演者以外（マネージメント、技術者、プロデューサー、評論家等）のどちらか一つにチェックすること。

②氏名

【本名】 ふりがなも記入すること。

③連絡先

【電話】 【メールアドレス】 事務局から応募・選考に関する問い合わせや選考結果を通知する際の連絡先をそれぞれ記入すること。

④保護者の同意

高校生研修の場合のみ記入すること。記入にあたっては、応募者の保護者が記入すること。

⑤所属団体の承諾

研修中も現在の職場に所属の場合のみ記入すること。記入にあたっては、所属団体の代表者の了解を得て記入すること。

【様式Ⅰ.応募基本情報】 全応募者対象

1頁以内とすること。

①応募分野

【応募分野】 美術・音楽・舞踊・演劇・舞台美術等・映画・メディア芸術の中から該当するものを一つチェックすること。バレエ伴奏等、音楽以外の分野に特定した演奏を主とする場合は、その分野へ応募のこと。高校生研修の応募できる分野は、音楽・舞踊のみ。

②専門分野

【専門分野】 募集案内の [2.3.対象となる研修分野] の「専門分野」一覧を参考に、芸術上の専門を細かい分類で簡略に記入すること [例：現代美術（映像）、器楽（ヴァイオリン）]。なお、専門分野が声楽の場合は、声種を記入すること [例：声楽（ソプラノ）]。

③作品資料の種別

【作品資料の種別】 該当のものをチェックすること。複数ある場合は該当するものをすべてチェックすること。

④研修区分

募集案内の [2.4.支援対象者の条件] で問題ないことを確認のうえ、記入すること。1年・2年・高校生・特別（研修）・特別（調査研究）・特別（国際芸術祭）の中から、該当する研修区分をいずれか一つチェック

すること。

⑤氏名

【本名】ふりがなも記入すること。

【芸名・雅号】本名と同じ場合は空欄とすること。

⑥顔写真

【写真】正面上半身、背景無地、提出の6か月以内に撮影したもの。（興行用写真、旅行先のスナップ写真等は不可。）

⑦生年月日

【生年月日】年の記載は、西暦で記入すること [例：2000年10月10日]。

⑧年齢

【年齢】募集案内の [2.4.支援対象者の条件] で応募条件に合致していることを確認のうえ、令和7（2025）年9月1日現在の年齢を記入すること。

⑨国籍

【国籍】募集案内の [2.4.支援対象者の条件] で問題ないことを確認のうえ、日本国以外の方は、永住権が確認できる書類も併せて提出すること。

⑩職業名

【職業名】 例：「美術家」、「音楽家」、「学芸員」、「会社員」、「学生」等

⑪最終学歴

【最終学歴】応募者自身の最終学歴について、適宜ひとつ記入すること。

例：「〇〇高等学校 〇年〇月 卒業もしくは卒業見込み」

「〇〇大学〇〇学部 〇年〇月 卒業もしくは卒業」。

「〇〇大学院〇〇修士課程 〇年〇月 修了」

「〇〇大学院〇〇博士課程 〇年〇月 修了」

「〇〇大学〇〇博士課程 〇年〇月 単位取得退学」

「〇〇大学〇〇博士課程 〇年〇月 退学」 等

⑫勤務先又は学校名

【勤務先又は学校名】現在の勤務先がある場合は会社名と役職を、学生の場合は学校・学年を記入すること。独立して活動している場合は、「フリー」「自営業」等と記入すること。

⑬所属団体

【所属団体】勤務先ではなく、芸術活動上の所属団体（専門分野の団体等）を記入すること。芸術活動上の所属がない場合は、空欄又は「なし」と記入すること。

⑭研修期間

【研修開始日】 【研修終了日】 【研修期間（日数）】募集案内の [2.1.研修区分、研修期間、研修開始日等] の表の区分と合致しているか確認のうえ、西暦で記入すること。また、研修期間は受入承諾書記載の受入期間を満たした期間となること。 [例：研修期間が2026年9月1日～2027年8月18日（350日）、受入期間が2026年9月2日～2027年8月1日となっている場合、研修開始日・研修終了日ともに受入期間を満たしていません。研修期間を受入期間内に収まるよう記入してください]

研修開始日は研修先での研修開始日、研修終了日は現地での研修終了日となる。日数計算サイト等で、初日を含む日付から正確にカウントすること。

[例：1年研修の場合]：2026年9月1日（日本出発日） 9月2日（研修地到着日） 9月3日（研修開始日）

2027年8月18日（研修終了日） 8月19日（研修地出発日・日本到着日）の場合、研修期間は、2026年9月3日～2027年8月18日（350日）となる。

⑮現住所の都道府県名

【現住所の都道府県名】現住所の都道府県名のみ記入すること [例：神奈川県]。海外在住者は国名のみ記入

すること [例：アメリカ]。

⑩研修開始前の居住国

【研修開始前の居住国】研修開始前の居住国について、日本・研修予定国・その他のいずれか一つをチェックすること。

⑪研修予定国・都市

【国名】 【都市名】 研修先は1か所を原則とする。都市名は研修先所在住所の都市名を記入のこと。研修上、特段の理由がある場合に限り複数地を認める。

【複数となる場合はその理由】 複数の研修先を記入の場合のみ、その理由を必ず記入すること。（同一都市に所在する複数の研修先を予定する場合も、理由を記入すること。）

⑫語学

【英語】 自己評価により以下のうち該当する番号をチェックすること。

- 4 日本語とほとんど同等に使用できる
- 3 仕事に使用できる程度の会話・読解力がある
- 2 海外旅行等での日常会話にはほとんど不都合がない
- 1 高等学校迄の授業や大学の第2外国語で履修したことがある

【その他の言語】 英語以外に研修に必要と考えられる外国語は必ず該当の言語を記入のうえ、【英語】と同様に自己評価の目安の該当番号をチェックすること [例：ドイツ語 4]。

【語学の資格・スコア】 語学検定等の資格やスコアがある場合は記入すること [例：英語検定準一級、ドイツ語検定準一級]。

⑬過去3年の本制度への応募歴の有無

過去3年の本制度への応募歴について、それぞれ有・無のいずれかにチェックすること。

⑭資格

【資格】 芸術活動や職業に関係する資格のみ記入すること。

⑮身長・体重

【身長・体重】 音楽分野の声楽及び、舞踊分野のみ記入すること。

⑯本制度の研修歴

募集案内の [2.4.支援対象者の条件] で問題ないことを確認のうえ、本制度で研修履歴が有る場合のみ以下をすべて記入すること。

【年度】 研修開始年度を西暦で記入すること。

【分野】 美術・音楽・舞踊・演劇・舞台美術等・映画・メディア芸術の中から該当の一つを記入すること。

【研修区分】 1年研修・2年研修・3年研修・特別研修・高校生研修・短期研修の中から該当のものを記入すること。

【研修国/都市】 研修を行った国及び都市を記入すること。

【研修先】 研修先（受入先名称）を記入すること。

⑰他の海外研修制度（助成・奨学金制度）との併願状況

募集案内の [2.4.支援対象者の条件] で問題ないことを確認のうえ、他の海外研修制度（助成・奨学金制度）と併願している場合のみ以下をすべて記入すること。

【申請先】 申請先の団体名、助成・奨学金制度名称を記入すること。

【結果発表時期】 結果発表時期について分かる範囲で記入すること [例：○年○月中旬頃]。

【備考】 記入は任意。

【様式Ⅱ. 経歴等】 全応募者対象

1頁以内とすること。枠内に収まる範囲で代表的なものを記入のこと。

①専門教育や研修等の履修歴

専門教育を受けた学校名や卒業、修了、在学中、在籍中等の別と、その西暦年、月を記入のこと。特定の指導者による個人レッスン等の記入も可。

②主な海外研修（留学）履歴

応募分野に関する1か月以上の滞在のみ記入すること。①と内容重複可。

③職業略歴

芸術活動に関係のある就職、就業、芸術団体への所属などの就業経歴を記入のこと。ない場合は記入不要。離職した場合はその旨記入すること。

④主な芸術活動の履歴

これまでに発表した主な作品や出演した舞台等の履歴を記入すること。団体の一員として関わった場合には、役割や配役などがわかるように記入すること。また、応募者本人が企画に関わった展覧会や事業について記入する場合は、その展覧会や事業において、どのような役割を担ったのかがわかるように記入すること
[例：ディレクター、アシスタント等]

⑤受賞歴

芸術活動の成果による受賞、奨学金の受給などの履歴を記入すること。

【様式Ⅲ-A. 研修計画】 全応募者対象（特別研修「調査研究」「国際芸術祭」を除く）

1研修先につき1頁とすること。特別の事情により研修先が複数になる場合は、研修先毎に1頁作成すること。

①研修先

【国名】は日本語、【都市名】は日本語と外国語表記で記入すること。

②研修先概要

【名称】研修先（受入先）の施設名を日本語と外国語表記で記入すること。ただし、個人指導の場合は「個人指導」と記入すること。

【施設の設置者】国政府、地方自治体名、学校法人名、会社名などを日本語訳で記入すること。個人指導者や不明の場合は記入不要。

【所在地】所在地は外国語表記で記入すること。個人指導の場合は研修を受ける場所（個人宅可）を記入すること。

【施設の概要】施設の場合は沿革、事業内容、学生数などを、研修先が個人指導の場合は指導者の紹介等を、簡潔に記入すること。

【施設種別】研修施設の種別について、該当するものを一つチェックすること。

【代表者】研修先代表者の【職名】【氏名】を日本語と外国語表記で記入すること。

【研修形態】研修形態について、該当するものを一つチェックすること。

③主たる指導者

主たる指導者の【職名】【氏名】を日本語と外国語表記で記入すること。主に師事する教授等について記入すること。

④研修の概要・目的

研修等の概要及びその目的について、400文字以内で具体的かつ簡潔に記入すること。

⑤研修によって得られる成果（客観的な成果が望ましい）

研修等を行うことにより、どのような成果が得られるのか（客観的な成果が望ましい）、今後の芸術活動にどのように生かすことができるのかなど、400文字以内で具体的に記入すること。

⑥研修方法

研修の方法を800文字以内で明確に記入すること。

⑦各年度の研修計画目的の達成目安

2年研修のみ記入すること。

2年研修の場合は、1年目終了時と2年目終了時の研修計画目的の達成目安（各100字以内）を記入すること。

【様式Ⅲ-B. 調査研究計画】 特別研修「調査研究」の応募者対象

1 調査機関につき1頁以内とすること。調査機関が複数になる場合は、機関毎に1頁作成のこと。

①調査機関の概要

【国名】 国名を日本語で記入すること。

【都市名】 日本語と外国語表記で記入すること。

【名称】 調査機関名称を、日本語と外国語表記で記入すること。

【所在地】 外国語表記で記入すること。

【調査機関の概要】 調査機関の沿革、事業内容、従業員数などを簡潔に記入すること。

②調査研究の概要・目的

調査研究等の概要及びその目的について、400文字以内で具体的かつ簡潔に記入すること。

③調査研究によって得られる成果（客観的な成果が望ましい）

研修等により得られる成果（客観的な成果が望ましい）、その成果を今後の芸術活動にどのように生かすことができるかなど、400文字以内で具体的に記入すること。

④調査研究方法

【日付】 **【目的】** **【調査研究内容】** 研修期間を開始日から終了日まで4つに区切り、「目的」欄には、各期間において調査を行う目的を明確に記入すること（各40字以内）。また、「調査研究内容」欄には、その期間に行う調査の内容を目的と照らし合わせてわかりやすく具体的に記入すること（各100字以内）。

【様式Ⅲ-C. 活動計画】 特別研修「国際芸術祭」の応募者対象

1頁以内とすること。

①国際芸術祭の概要

【国名】 国名を日本語で記入すること。

【都市名】 日本語と外国語表記で記入すること。

【URL】 芸術祭イベントのホームページアドレスを記入すること。

【芸術祭名称】 芸術祭の名称を、日本語と外国語表記で記入すること。

【芸術祭開催地】 外国語表記で記入すること。

【芸術祭の主催者】 国政府、地方自治体名、学校法人名、会社名、実行委員会名等わかる範囲で、日本語で記入すること。

【芸術祭の概要】 芸術祭の分野、規模、開催期間、参加芸術家数、延べ観客数、当該応募芸術分野における位置づけ・評価、実施回数など、芸術祭の内容について記入すること。

【芸術祭のディレクター等】 芸術祭の芸術面の責任者について、職名（ディレクターやプロデューサー等）と氏名を日本語と外国語表記で記入すること。

②これまでの主な招へい者

【これまでの主な招へい者】 当該国際芸術祭に招へいされた著名な芸術家の氏名を記入すること。日本人が招へいされた実績がある場合には、その氏名も記入すること。

③活動の概要・目的

活動の概要及びその目的について、400文字以内で具体的かつ簡潔に記入すること。

④活動によって得られる成果（客観的な成果が望ましい）

活動によって得られる成果（客観的な成果が望ましい）、その成果を今後の芸術活動にどのように生かすことができるかなど、400文字以内で具体的に記入すること。

⑤活動方法

【日付】 【目的】 【活動内容】 研修期間を開始日から終了日まで4つに区切り、「目的」欄には、各期間において調査を行う目的を明確に記入すること（各40字以内）。また、「活動内容」欄には、その期間に行う活動の内容を目的と照らし合わせてわかりやすく具体的に記入すること（各100字以内）。

【様式IV-A. 受入承諾書説明書】 全応募者対象（特別研修「調査研究」「国際芸術祭」を除く）

1機関につき1頁以内とすること。受入先が複数になる場合には、受入先毎に1頁作成すること。受入承諾書記載の内容・和訳（応募者本人の翻訳で構わない）を該当項目に沿って記入すること。応募時に受入承諾書を手が届かない場合は、項目⑧に受入承諾書の【提出予定日（時期）】と【入手できていない理由】を具体的に記入すること。後日入手後は、【受入承諾書（自由様式）】と、更新した【様式IV-A.受入承諾書説明書】を併せて事務局宛にメール（zaiken-support@his-world.com）で提出すること。受入承諾書は、応募時に提出が間に合わない場合でも、2次選考(面接)（令和8年1月～2月）当日迄には提出が必須です。予めご留意ください。

【様式IV-B. 招へい状説明書】 特別研修「国際芸術祭」の応募者対象

1頁以内とすること。招へい状記載の内容・和訳（応募者本人の翻訳で構わない）を該当項目に沿って記入すること。

【様式V. 推薦書】 全応募者対象

1頁以内とすること。推薦者は1名限り。推薦者（芸術上の指導者等）の記入による推薦書とする。推薦者の使用言語が外国語の場合は、自由様式に【様式V】の項目内容と推薦者署名（直筆サイン又は、電子署名）が記載されたもの（1頁以内）を入手し、【様式V】には、推薦者説明書として、和訳（応募者本人の翻訳で構わない）を記入したものを併せて提出すること。

【様式VI-①. 「PDF資料」内容一覧】 「PDF資料」提出者対象

1頁以内とすること。「PDF資料」の目次として記載すること。

【様式VI-②. 「動画資料」内容一覧】 「動画資料」提出者対象

1頁以内とすること。「動画資料」の内容一覧を記載すること。